

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、III、V】
2 実施対象者	山の手養護学校中学部 1～3年生 7名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 自立活動・特別活動 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	生徒一人一人が、オリンピックの講和やカーリング体験をきっかけに、スポーツに親しみ、仲間と協力しながら学び合おうとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>中学部全体で行う自立活動の時間で、カーリングについて知識を深める学習、実際にフロアカーリング体験を行った。当日は講演、実技指導やボードを用いてルールの確認、実際のゲームという流れで行った。</p> <p>○指導計画 【4時間扱い】</p> <p>【自立活動】 1時間</p> <p>自立活動の「身体の動き」と「人間関係の形成」を目標とし、パワーポイントを用いてカーリングの道具やルールについての理解を深めた。実際に活動する場面では、生徒それぞれの身体の特徴に合わせた道具を使ったり身体の調整を行ったりしながら練習を行った。</p> <p>【特別活動】 3時間</p> <p>本間篤史さんにフロアカーリングの面白さや、難しさをご講演いただいた後に実技に競技に取り組んだ。ルールの理解やストーンを投げる力がない生徒のために、テーブルカーリングを持参していただいた。また、ゲームでルールを理解するチームと、投げる練習をするチームに分かれて取り組んだ。</p> <p>ルールを教えあう姿やアドバイスをする姿など、積極的に仲間と交流する姿が見られ始めた後、2チームに分かれ試合を行った。お互いにライバル心を燃やしながらも、一致団結して取り組み、一投一投歓声上がるほどの熱戦が繰り広げられた。</p>

	<p>本校の生徒は、病気や障害をもっているため、スポーツに対して苦手意識がある生徒も在籍している。しかし、本間選手のご指導のもと、全身を使って悔しさや喜びを表現する姿や大きな声をあげて応援する姿など、身をもってスポーツの醍醐味を体験する貴重な機会となった。</p> <p>体育館での活動を終了した後、教室に集まって本日の反省及び礼状の作成等を行った。</p>
6 主な成果	<p>オリンピック・パラリンピック推進事業後すぐに平昌オリンピックが開幕した。普段スポーツについて語り合う生徒たちではないが、カーリングはいつかな?と興味をもって調べる様子が見られた。また、休み時間に日本対アメリカを見たときには、オリンピック選手の技術の高さに感動しながら観戦し、「自分たちはカーリングをやったことがあるんだ」という誇らしげな表情が見受けられた。</p> <p>病気をもっているでもスポーツを楽しめること、社会に目を向け関わりをもとうとする気持ちを育てることができた。</p> <p>また、今回のフロアカーリング体験をきっかけに、今後実際に氷上カーリングをやってみたいという意欲的な声が上がった。病気や障害により、冬のスポーツに取り組みにくい生徒が多いのだが、今回の経験を経て、冬のスポーツにも積極的に参加しようという姿勢が見られた。自立活動やスポーツ大会等、様々な機会を視野に、生徒たちのスポーツへの意欲を伸ばしていきたい。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>取組の内容に記載した通り。</p>
8主な課題等	<p>今回のカーリング体験を通して、スポーツの喜びや前向きに生きていこうと考える姿を育むことができた。しかし、まだまだ病気をもつ子供たちがスポーツの喜びを感じられる競技数は少ないと考える。</p> <p>生徒一人ひとりの病状や身体の制限、障害の程度を踏まえて、スポーツの楽しさを伝えることは簡単ではない。今後も、旅行的行事の工夫、ICTの積極的な活用、教材教具の開発などを継続して行い、スポーツを通して病気や障害を克服する気持ちや態度を育てていきたいと考える。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。</p>